

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年八月度 入選句 (投稿総数二千九百二十八句・小中学投句数二千三百二十三句)

特選

選者 白井 静子

たきの声たびをしたいとしゃべってる 大垣市

伊藤 将輝(小五)

滝の音はとても大きい。友達の呼びかける声もかき消してしまふ。そんな大きな音を滝の話し声としてとらえたところがよいですね。そして、それが「旅をしたい」と言う内容なのもよい着想です。芭蕉さんのように、滝も旅に出かけたのでしょうか。

大きな海にまでも行けたことでしょう。それは作者の願いなのかもしれませんね。

川の上でいくうひこう夏のはと 大垣市

土屋 景(小六)

四季の広場にはたくさんの鳩がいます。鯉にあげたパンくずを、鳩もちやつかり食べています。いつも見慣れた光景ですが、作者は川の上を低空飛行する鳩に目を止めたのですね。きっと自分のお気に入りの場所を目指して飛んでいたのでしょう。「夏のはと」としたこと、今の季節がより一層はつきりしました。季語の生きている一句です。

真夏日の青空の中ホームラン 美濃加茂市

川合 力生(中三)

今年の夏も暑い日が続きました。でも、野球少年たちは毎日汗をかいて練習です。その成果がホームランになって現れたのですね。

真夏の青空にくつきりと白いボール。とても鮮やかな光景です。臨場感があって、読む人にもその緊張が伝わってきます。

中学三年生にとっては最後の試合だったのかも知れません。三年間の部活を締めくくる、最高の夏でした。

秀逸

つゆ雲り川の流れははやくなる 大垣市

山越 翔太(小六)

くもの巢はあまつぶさえもつかまえる 大垣市

須藤 滉平(小六)

キンとするけどそれもいいかき氷 美濃加茂市

松岡 里音(中二)

誘われただけで嬉しい夏祭り 美濃加茂市

加藤 万弥(中二)

はにかんで背のびして着るゆかたかな 美濃加茂市

木股 紗弥(中二)

なつがきてきゆうにスイカすきになる 大垣市

つつみ ゆき(小二)

せん風機今日のページをめくってく 大垣市

森本 彩乃(小四)

すいえいのけんていごうかく水はねる 大垣市

はっとり こう大(小二)

水草の間を仲良くこい通る 大垣市

吉岡 杏紗(小六)

夏の空芭蕉が見ている遠い日々 大垣市

井出 菜々美(小六)

入選

山あそびじゃまをしてくる夕立が 大垣市 谷口 碧(小六)
 合唱で気持ち伝える雨蛙 大垣市 遠藤 七海(小六)
 葉をぬらすつゆの雨つぶみどり色 大垣市 吉田 優芽(小六)
 もやい舟もようのように青葉かげ 大垣市 武藤 翠(小六)
 なつの空川灯台がそびえ立つ 大垣市 竹本 紗雪(小六)
 自転車でトンボと一緒にうち帰る 美濃加茂市 森 菜々穂(中二)
 鮮やかなかき氷の器そつと持つ 美濃加茂市 三輪 舞香(中二)
 夜の小道色付けるよに飛ぶ蛍 美濃加茂市 中西 詩織(中二)
 ヒマワリが僕が僕がと背伸びする 美濃加茂市 水谷 蒼空(中三)
 だんごむしまるくならずにあそぼうよ 大垣市 ささ木 ゆい名(小二)

入選

よこ笛とおさななじみと夏祭り 大垣市 山田 優杏(小四)
 梅雨入り毎日かさと登下校 大垣市 棚橋 万桜(小四)
 妹ときつちり分けるよさくらんぼ 大垣市 出井 陽(小四)
 ミニトマトいつきに三こしゅうかくだ 大垣市 佐藤 新大(小二)
 あさがおはしんぶんやより早おきだ 大垣市 川瀬 心晴(小二)
 石垣が燈台ささえ梅雨晴れ間 大垣市 渡邊 凜歌(小五)
 いきとめてせんこう花火おわるまで 大垣市 こじま たける(小二)
 かたつむりとおったあとがめいろだね 大垣市 ふじわら ゆら(小二)
 ミニトマトじゅんにならんで赤くなる 大垣市 木村 さな(小二)
 舟下りつゆのあいだをぬけて行く 大垣市 平田 ひなの(小五)

選者吟

雲の峰目指して車走り出す 静子